

ドラえもんクイズ 総評

NF 展示ではドラえもんクイズを級別に分けて 4 種類出題した。各級ともに 15 問 15 点満点で、平均点と成績優秀者については以下の通り。

初級（子供向け）：9.26 満点は 5 名

初級（大人向け）：9.29 満点は 3 名

中級：5.42 最高点は 14 点、次点は 11 点が 1 名、10 点が 3 名

上級：4.31 最高点は 12 点、次点は 9 点が 1 名、8 点が 2 名

満点の人数の少なさから初級でもかなり難しいのでは、と感じる方もいると思われる。しかし、会場では問題用紙にざっと目を通したあと、他の展示会場を優先するためだったのか、はたまたあまり正解を得られなさそうだと感じたのか定かではないが、その場では解答せずに（記念に）持ち帰るというお客さんの姿が目立った。そのため今回の平均点は、ご来場のお客さんが会場で問題を解き、それを F 同会員が採点をし、かつ記録を取った枚数分のみの結果である。結果としてサンプルは少なく、初級（大人向け）が最大で 73 名、上級は 26 名の平均となっている。

中級と上級については解答に加えて解説も用意したので参照いただきたい。

以下、クイズ全体について軽く講評したい。

初級（子供向け）

出題者の我々としては、大学祭に出展するのは初めてのことで、子供向けを作るのはよいとしても、どのくらいの子供が来てくれるだろうかは予想がつかないところであった。そこで、子供向けの問題は、マンガ原作からというよりは、現在放送中のアニメや映画から主に出題することにした。③④⑥⑧⑩と、実に 15 問中 5 問が映画に関する問題となったのはそれゆえである。その他はキャラクターの特徴など基本問題。平均点は 10 点前後を予想していたが大体その通りになった。

②については今年がドラえもん誕生 100 年前ということで子供さんはよくできていた印象がある。逆に「2012 年」というケアレスミスをする大人の方がちらほら。

⑧は今年 3 月公開の映画『奇跡の島』を観ている方なら「野比のび助」を出すのは簡単。だが、「野比のび三」（『地下鉄をつくっちゃえ』）の解答を出す子供さんが何人かいたのにはビックリ。息子の「ノビスケ」と混同して白紙答案という方もいた。

⑬藤子・F・不二雄ミュージアムやアニメでおなじみ。正答率は高め。

⑭子供向けとしてはこれができるれば満点に大きく前進する問題か。「スネ吉」の誤答も複数見受けられた。

⑮来年の映画について知ってほしいという思いから出題した。正答率が低かったのは残念ではあるが…（笑）。『新魔界』『新鉄人』などの監督で知られる寺本幸代さんが、オリジナル作品のメガホンを初めて握る。ひみつ道具の謎が明らかになるということだが果たして…。公開は来年の3月9日を予定。

初級（大人向け）

有名どころのお話なら読んだことがある、というような人向け。子供向け同様キャラクターの特徴といった基礎知識はもちろんのこと、ネットなどで“暴言”として取り上げられているような有名セリフも出題してみた。これも予想平均点は10点前後であった。

①～⑥は怒涛の人物名クイズ。前半部分だけなら子供向けよりも解きやすいという声もちらほら。

⑤予想通り「出来杉」という誤答が目立った。何でも出来る彼だが名字の漢字は違うのだ（ちなみにコミックで誤植がされるほどの有名な誤字）。

⑥の神成さんは顔は思い出すが名前は…というような解答者が多かったか。

⑨生物種名とは？となったのか、フタバズキリュウということまで覚えていないか。

⑫大学生はちょうどドラえもんズ世代でもあるので出題。これが意外に正答率が低かった。誤答で多かったのは「ドラニーニョ」。「ドラウジーニョ」とサッカー選手でいたなあという名前の誤答も。藤子プロによるコミックに触れず、アニメを観た時の耳の記憶があやふやならこのような間違いもやむなしといった感。

⑬「高岡市」とF先生の出身をあげてくれる方もいた。ミュージアムは関西からは遠くなかなか行きづらいが、藤子ファン・家族連れなど誰もが楽しめる場所となっているので、ぜひ一度足を運んでほしい。

⑭⑮はそこそこ有名どころでは？⑮は「子供」という惜しい間違いも。

中級

初級から出題範囲を原作全体に広げた。初級の問題を見て「初級でもわからんぞ」などと苦笑いを浮かべていた来場者の方は中級・上級は見て見ぬふりをする or 記念に持ち帰り会場で解かない…という行動を選択したようである。作成側としても問題の出し方（四択の有無など）で上級との差別化を図ったが、マニア向け問題となってしまったと言えよう。

④理由まで求めれば上級問題になるか。ジャイアンを除く4人の雨男・晴れ男度がいくらかを考えるのが解答のミソ。

⑤チップの印象が強いのかイヌと書いた誤答が多かった。一方で「サル」「カメ」などは少なかった。

⑨当初の問題では「何役で登場したか」を答えよというものだったため、妖精、姫、三剣

士の一人、などの答え方でも正解とした。解答として二人あげるものが多く、シルクが思い出せない人が多かった。なお、Web 公開版では問題文を修正し、キャラクター名を答えなければ不正解とした。

上級

記述式は 9 問あったが、そのうち完答問題が 4 問を占めることからもいかに難問であったかが窺い知れる。実際、完答問題については、「三感」と「おばあちゃんの登場話」で数名正解者がいたものの、「のび助の大長編」に至っては完答はおろか 2 タイトル正解者さえゼロという事態になった。

おばあちゃんとのび助の問題は、横山泰行先生の『野比家の謎』に載っていたデータからこのような問題を作れば面白いのではというところに端を発する。例えば、のび助は大長編 17 作のうち 14 作に登場するという表のデータから⑮のような問題が生まれたというわけである。カルトクイズになってしまった感は否めないし、部分点を設けるべきだったかもしれない。予算の関係上、景品などの用意ができなかったこともあり、1 問 1 点スタイルの出題を行ったが、この辺りの配慮は来年度以降の反省材料とすべきだと思う。今回問題に挑戦してくださった方には申し訳ないが、普段は同好会としてまったりやっている F 同がクイズ作りで（調子に乗って）研究らしいことをして、その発表会に居合わせたとでも軽く考えてくださるとありがたい限りである。

問題個々の解説は解答ページを参照いただきたい。